

『あなたは高価でも、尊くもない？』

'23/01/01

聖書箇所：イザヤ書 43 章 1-7 節(旧約 p.1194)

皆さん、改めまして、明けましておめでとうございます。今日は元日ということで、2023 年、最初の礼拝ということになります。そこで今日は、ここ最近、多くのメッセージや証しで引用されている聖書箇所を、今日のみことばとして選ばせていただきました。…と言いましても、この教会の皆さんは、多分、このメッセージをお聞きになったことがあると思います。しかし、恐らく、ここイザヤ 43:4 のみことばは、今、ほとんどのキリスト教会で正しく解釈されず、少し違った理解がはびこってしまっているようです。

そこで、今日は、このメッセージが、少しでも、皆さんの理解に一石を投じることになることを願って、今から皆さんと一緒に、イザヤ 43 章のみことばを検証していきたいと思えます。そうすることによって、私たちが少しでも正しい聖書理解に立って、ますます、神様の恵みの大きさ&偉大さに気付くことができ、より一層の感謝と献身の思いを持って、この1年を歩んでいけることを願います。

命題：神がイスラエルに与えられた、「特別な恵み」とは？

どうぞ、皆さん。できましたら、今日のみことばであるイザヤ 43:1-7 をお聞きください。ここには、紀元前(700 年頃)に活躍した預言者イザヤを通して、イスラエルに語られた、主のみことばが記されています。このみことばが教えてくれている内容は、真唯一の神様が、あのイスラエルに与えてくださった、「特別な恵み」について、であります。

I・神様が主導の、「救い」！(1-3 節)

どうぞ、まずは、今日のみことばの内、1-3 節の部分に注目していきましょう。ここでは、すべてのものの造り主なる神様が、イスラエルのことを救ってくださる！つまりは、神様が主導の“救い”について、教えられています。そういったことを、今から一緒に確認していきましょう。1-3 節には、こうあります。

- 1 だが、今、ヤコブよ。あなたを造り出した方、【主】はこう仰せられる。イスラエルよ。あなたを造った方、【主】はこう仰せられる。「恐れるな。わたしがあなたを贖ったのだ。わたしはあなたの名を呼んだ。あなたはわたしのもの。」
- 2 あなたが水の中を過ぎるときも、わたしはあなたとともにおり、川を渡る時も、あなたは押し流されない。火の中を歩いても、あなたは焼かれず、炎はあなたに燃えつかない。
- 3 わたしが、あなたの神、【主】、イスラエルの聖なる者、あなたの救い主であるからだ。わたしは、エジプトをあなたの身代金とし、クシュとセバをあなたの代わりとする。

●神様からの「一方的な選び」

まず、今日のみことばである「イザヤ書」ですが、これは、将来に起こることがたくさん予言されてあることから、「預言書」と呼ばれています。すべてを御存知の神様は、その最善なるみこころの内に、イザヤという人物を通して、多くのことを教えてくださいました。そのイザヤ書が語ってくれているメッセージは、イスラエルが、彼らの罪のゆえに、1度、裁かれはするが、また、回復せられる、というものでした…。

今日のみことばの直前、特に、42 章の最後の部分では、イスラエルに対する裁きが語られています。どうぞ、イザヤ 42:24-25 をご覧ください。ここには、『24 だれが、ヤコブを、奪い取る者に渡し、イスラエルを、かすめ奪う者に渡したのか。それは【主】ではないか。この方に、私たちは罪を犯し、主の道に歩むことを望まず、そのおしえに聞き従わなかった。25 そこで主は、燃える怒りをこれに注ぎ、激しい戦いをこれに向けた。それがあたりを焼き尽くしても、彼は悟らず、自分に燃えついて、心に留めなかった。』とあって、イス

ラエルが受ける厳しい裁きが、実は、彼ら自身の罪のせいであったこと…、また、彼らが神様の教えに聞き従わなかったために、神が怒っておられる！ということが語られています。

しかし、神様の御計画は、そこで終わりません！だから、今日のみことばのイザヤ 43:1 の最初には、『だが…』とあるのです。「確かに、神は、彼らの罪のゆえに、イスラエルを裁かれる！だが、それで終わりではない！必ず、回復させられる！」というのが、今日のみことばの「流れ」であります。

今日のみことばで、『ヤコブ』とあるのは、創世記に出てくる、この『ヤコブ』という人物が、神の御使いと戦って…、あの有名な『イスラエル』という名前と神様からの祝福を得たからです。彼こそは、イスラエルの起源でもあったと言い得るわけです。…今日のみことばの 1 節で、イザヤは、主なる神様のことを、こう説明しています、『あなたを造り出した方』…、『あなたを造った方』って…。つまり、この御方は、ヤコブやイスラエルの民たちのことを造ってくださった造り主なのです。でも、それだけではありません。ここでは、神様が、そのイスラエルを贖ったとか、神様がイスラエルの名を呼んだとか、彼らが、まだ、神様のものである、という話がなされています。つまり、天の神様は、罪を犯したからと言って、イスラエルのことを完全に見捨てられたのではなかったのです！

実は、イスラエルという国は、今もまだ、神様の特別なみこころにあって、特別な役目を与えられています…。そのことの証拠として、黙示録などを見てみると、そこには、イスラエルが、また、神様の御計画の内に、大きな活躍をする？というような予言がなされています。神様は、そのようなイスラエルを、一方的に選ばれました。その理由は、イスラエルが、特別、清かったからとか…、何かの能力があったから、ではありません。そこには、神様にしか分からない、一方的な選びがあったとしか言えないのです。

●神の「完全なご加護」

さて、その神様は、イスラエルのことを、今もまだ特別に覚えておられる！というのが、このメッセージであります。そのゆえに、イスラエルという国は、今に至るまで、神様の完全な御守りを受けているのです。今日のみことばの 2 節にも書かれています通り、現に、イスラエルの民衆たちは、出エジプトをした時、①『水の中を』歩いた、なんてことがありました(出エジプト記 14 章)。その後、約束の地カナンへ攻め入る時には、②川を渡ろうとした時、その水が止まった時もありました(ヨシュア記 3 章)。また、今日のみことばが書かれた後の時代のことですが、ダニエル記には、③3人の若者たちが燃える炉の中に投げ込まれても、助かったという奇蹟が記されています(ダニエル記 3 章)。

このように、イスラエルの神様は、裁きの中にあつたイスラエルに対しても、神様を信じ…、その神様に従ってこうとする者たちのことを、特別に顧みて…、彼らのことを、特別な奇蹟を用いるなどして、守っていただきました。その理由が、今日のみことばの 3 節前半で語られています。それが、『わたしが、あなたの神、【主】、イスラエルの聖なる者、あなたの救い主である“からだ”。…』ということです。

このように、天の神様は、1度救ってくださった者たちのことを、決して見捨てられません！確かに、その者たちが間違った歩みをしていった時には、それに対する厳しい懲らしめを下されることもあります。実は、そのような懲らしめもまた、神様の恵みなのです。だから、新約聖書のヘブル 12:6-7 のみことばは、こう教えます、『6 主はその愛する者を懲らしめ、受け入れるすべての子に、むちを加えられるからである。』7 訓練と思つて耐え忍びなさい。神はあなたがたを子として扱っておられるのです。父が懲らしめることをしない子がいるでしょうか。』って…。また、ヘブル 12:11 には、『すべての懲らしめは、そのときは喜ばしいものではなく、かえって悲しく思われるものですが、後になると、これによって訓練された人々に平安な義の実を結ばせます。』とある通りです。

このように、天の神様は、1度救ってくださった者たちのことを見捨てて、放っておられることはありません。神様は、常に、救われた者たちのことを顧みて…、特別に憐れんで…、ある時には優しく、また、ある時に

は厳しく、導いてくださるのです。実は、こういったような、神様の導きも、また、神様の与えてくださる「救い」の一部分なのです。だって、私たち人間は、このような導きと言うか、訓練を通して、少しずつ、清められ…、いろんなことを学ばせられて、霊的に成長していくわけじゃないですか！…そうでしょ？

II・神様からの、大きな愛！(3-6節)

さて、問題は、今日のみことばの3節以降であります。今日は、今日のみことばの3-6節から、その神様からの大きな“愛”というものについて見ていきたいと思えます。果たして、神様の愛とは、どのようなものであり…、私たちは、神様の愛を、どのように受け取るべきなのでしょう？3節の部分が、先程と重なってしまっていますが、もう1度、今日のみことばの内、3-6節の部分を読ませていただきます。

- わたしが、あなたの神、【主】、イスラエルの聖なる者、あなたの救い主であるからだ。わたしは、エジプトをあなたの身代金とし、クシュとセバをあなたの代わりとする。
- わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。だからわたしは人をあなたの代わりにし、国民をあなたのいのちの代わりにするのだ。
- 恐れるな。わたしがあなたとともにいるからだ。わたしは東から、あなたの子孫を来させ、西から、あなたを集める。
- わたしは、北に向かって『引き渡せ』と言い、南に向かって『引き止めるな』と言う。わたしの子らを遠くから来させ、わたしの娘らを地の果てから来させよ。

●ここで言われている『あなた』とは？

どうか、皆さん。このみことばが指している『あなた』という言葉が誰を指しているのか、よく考えてみてください。…じゃないと、私たちは、このみことばが教えようとしている内容を正しく理解できないばかりに、間違っただけの反応をしてしまう可能性があるからです。

そのために、ここで分かりやすい練習問題を出させてください。使徒 16 章に記されてある、『主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます』(使徒 16:31) という、あのみことばです。…さて、この言葉を発したのは、パウロとシラスですが、彼らは、誰に対して、『あなた』と言ったのでしょうか？

⇒答えは、この文脈を見れば明らかなように、当時、「ピリピにいた看守」に対して、であります。そうですよ！…それ以外は皆、基本的には間違っただけの理解であり、解釈です。しかし、実は、このみことばを間違っただけの解釈して、「ここで言われている『あなた』とは、私のことだ！神様は、この私に対して、「①主イエスを信じなさい！②そうすれば、私も、私の家族も救われます！」ということをお約束してくださったのだ！と考える人たちが居ます。…でも、それは正しい解釈、正しい理解でしょうか？

いいえ！残念ながら、そうではありません。…皆さんもご存知のように、私は時々、自分自身の勉強のために、他の教会のメッセージなども聞いたりしていますが、さすがに、このみことばから、「ここで言われている『あなた』とは、今、このメッセージを聞いている私たちのことです！」というような説き明かしを聞いたことがありません。…しかし、さすがに、メッセージでは聞いたことがなくても、クリスチャンの個人個人レベルでは、何度か、そのような聖書解釈 & 理解を聞いたことがあります。…つまり、「天の神様は、使徒 16:31 のみことばを通して、この私に対して語ってくださった！神様は、私の家族も救ってくださると約束してくださったのだ！」というような理解です。

果たして、天の神様は、あそこのみことばから、そんなことを語り…、教えてくださっているのでしょうか？本当に、使徒 16:31 のみことばは、すべてのクリスチャンたちに対して、「あなたが主イエスを信じたら、あなたの家族も救われる！」というようなことを約束して下さっているのでしょうか？…いいえ！そんなはずはありません。…と言いますのは、あそこで、『主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救

われます』という言葉が発したのは、パウロとシラスであって、彼らは、その当時、自分たちの目の前に居た「ピリピの看守に対して」、このことを言ったわけで、この言葉を、そのピリピの看守以外に当てはめることはできません。…それは分かっていますか？

しかし、私たちの周りには、そういったような間違っただけの聖書解釈が蔓延っていて、「神様は、使徒 16:31 のみことばから、私が主イエスを信じたら、私の家族も救ってくださると約束してくださるのに、私の家族は救われなかった…。神様は嘘つきだ！」なんていう反応を皆さんは聞いたことがありません？…そのように、間違っただけの聖書理解は、そこから間違っただけの反応や…、良くないリアクションを引き起こしてしまう可能性が高いのです。…だから、私たちは、聖書を正しく観察して、正しく解釈するよう努めなければならないのです。

さて、どうぞ、今日のみことばである、イザヤ 43 章に戻りましょう…。ここで天の神様は、このみことばを、誰に対して語られたのでしょうか？…それは、あのヤコブを先祖とする、イスラエルの民たちに対して、ですよ。言い換えると、全人類の内、“イスラエルの民族だけ”を指して、そのイスラエル民族のことを、“別の民族と比較して”、特別に愛している！とおっしゃっているわけです。…にも関わらず、多くのキリスト教会は、ここ4節の、『わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。…』という部分だけを、この文脈から抜き出して、すべての民族…、すべての人に対して、「天の神様は、私たちのことを皆、高価で尊いと見て下さっています。神は、あなたのことを愛している！とおっしゃって下さっていますよ！」と教えます。果たして、それは正しい理解 & 聖書解釈でしょうか？

実際、私が YouTube などでも聞いたメッセージの約半数は、「今日は、イザヤ 43:4 のみことばを学びます…」と言いながら、どういうわけか、そのみことばの後半部分を、何の説明も無く、カットしてメッセージされておりました。一体どうして、イザヤ 43:4 から話すと言っておいて、その4節の後半部分をカットするのでしょうか？…それは、その後半部分がいたら邪魔だから…、聖書の文脈を無視して、自分の言いたいことを言おうとしているから、ではないでしょうか？

●2種類の愛 = 2種類の思い？

さて、今日のみことばであるイザヤ 43 章で、天の神様は、あのヤコブを先祖とする、イスラエルの民たちに対して、語っておられます。言い換えると、先程も言ったように、全人類の内、“イスラエルの民族だけ”を指して、そのイスラエル民族のことを、“別の民族と比較して”、特別に愛している！とおっしゃっているわけです！

確かに…、大前提として、天の神様は、私たち人類のすべてを愛して下さっています。だから、例えば、山上の説教のマタイ 5:44-45 にも、『44 しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。45 それでこそ、天におられるあなたがたの父の子どもになれるのです。天の父は、悪い人にも良い人にも太陽を上らせ、正しい人にも正しくない人にも(恵みの)雨を降らせて下さるからです。』とあって、天の神様は、すべての人を愛して…、良くしてくださっているように、私たちもまた、この神様にならって、すべての人を愛して、良くしてやりなさい！ということが教えられてあります。

しかし、ある意味、残念なことかも知れませんが、神様からの愛というものは、すべての人に対して、皆、平等に注がれている、ということではありません。確かに、たった今、確認いたしましたように、太陽や雨などといったような自然から受ける恵みに関しては、地域の差こそあれ、信者と不信者の区別なく…、皆、同じように、その恵みに預かることができているように思われます。

しかし、皆さんは、こういったみことばがあることも、よくご存知だと思います、『わたしはヤコブを愛し、エサウを憎んだ…』(ローマ 9:13、マラキ 1:2-3) って…。どうか、皆さん、まずは勘違いしないでくださいね。このような言い回し(表現)は、当時のユダヤ人社会にあって、敢えて、極端な表現を使うことによって、1番

に言いたいことを強調しているのです。…つまりは、天の神様は、ヤコブのことを一番に愛し、優先された！ということを知りやすく、かつ強調するために、「エサウを憎んだ…」という表現があるわけで、これは決して、神様がエサウのことを、文字通り、憎んでおられた、という意味ではありません。

でも、こういった聖書のみことばが教えてくれているのは、「神様から私たち人間に注がれている愛は、私たち人間すべてに対して、皆同じように…、また、均等に注がれている！ということではない」ということですよ？例えば、あのイエス様でも、福音書には、『(イエス様が)愛された弟子』(ヨハネ 21:20)という表現があって、12弟子たちの中でも、イエス様の愛？が、必ずしも、均等ではなかったことがうかがえます。

だから、今日のみことばにも、エジプトをイスラエルの身代金にしたという話がなされてあるわけです。…『身代金』というのは、皆さんも、よくご存知のように、誘拐事件などで使われますが、あるものとあるものとを交換するわけですが…、こっちとしては、より価値がある…、大切なものの方を、そうではないものと交換するわけで、誘拐された人物の方に、より大きな価値を認めるから、多くの人たちは、大金を払ってでも、誘拐された人物を取り戻そうとするわけですよ？ここ 3 節では、『クシュ』と『セバ』という地名が挙がっています。『クシュ』というのは、今で言うエジプトの南エチオピアの辺りか、南スーダンの東辺りでしょうか。また、『セバ』というのは、今のアラビア半島の一部を指しています。でも、これらが、どこを指していようと、あまり重要ではありません。

要は、今日のみことばが教えてくれている、神様からの愛は、特に、イスラエルに対するものであって、神は、特に、イスラエルのことを愛し…、特別に顧みてくださっているということでもあります。ある意味、残念ながら、神様からの愛というものは、人類のすべてに対して…、皆、同じように均等に注がれているものではありません！しかし、今、多くのキリスト教会が、このみことばを用いて、誰でも彼でも、「あなたは、神の目から見た時、まるで高価な宝石のように見られています。あなたには価値があるのですよ！」というように語っています。でも、そういったことは、明らかに、正しいメッセージではありません！そうでしょ！皆さん？

●神が、価値ある者としてくださった！

私が、インターネット等で多くのメッセージを聴きますと、ほとんどの教会が、みことばの中にある『あなた』という言葉の説明(≒解釈すること)も…、限定することなく、すべての人を対象に、「あなたは高価で尊い！」と言われていると説明し…、その根拠を、例えば、創世記 1:26 のようなみことばに置いているようです。つまり、私たち人間が、神様に似せた存在として造られたから価値があると…、私たち人間一人ひとりに個性があって、皆、掛け替えの無い存在だから、価値があるのだ！と教えます。しかし、もし、そうだとしたら、それは、イスラエルだけに当てはまりません。そうですよね？しかも、多くの教会は、このみことばの解釈と言うか、「高価で尊い」ということの根拠を、ほとんどすべての場合において、どこか全く別の聖句を持ち出してきて、説明しています。果たして、それは、正しい聖書解釈でしょうか？

実は、イスラエルが、神様の前に高価で尊いとされる、その根拠は、このみことばに記されてあります。⇒それは、神様が、彼らイスラエルのことを選んでくださったからです！今日のみことばでも、こう教えられています、1 節、『…わたしがあなたを贖ったのだ。わたしはあなたの名を呼んだ。』とか…、また、3 節、『…わたしが、あなたの神、【主】、イスラエルの聖なる者、あなたの救い主であるからだ。』とか…。皆さん、分かってくださいますか？…つまり、天の神様がイスラエルを選ばれたから…、だから、その選ばれたイスラエルに価値があるのです！

どうぞ、このみことばを、もう1度観察してみてください。一体、誰がイスラエルのことを贖ったのでしょうか？一体、誰が、イスラエルの名を呼ばれたのでしょうか？⇒天の神様です！そうでしょ？すべて、神様が、これらの行動の主人公であり…、神様こそが、すべての源なのです！そう！神様が、イスラエルのことを選ばれたのです！実は、その…、神様の選びにこそ、価値があり…、選びこそが理由なのです。それ以上のことは、「分からない…」としか言いようがありません。

どうぞ、皆さん。例えば、イスラエルの祖先とされた、あのアブラハムのことを思い出してみてくださいませう？アブラハムはどうして救われましたか？…彼が素晴らしい人間であったからですか？それとも、何か特別な価値があったからですか？聖書のみことばは、どう教えてくれていますか？⇒ローマ 4 章のみことばは、「信仰によって、アブラハムは義とされた！」と教えます。じゃあ、その信仰を与えてくださったのは誰でしょう？

ローマ3章のみことばは、「義人はいない！1人もいない！」と教えます。また、こうも教えます、「神を求める人はいない！」って…。そうですよね？…でも、ある時、イエス様は、こう教えてくださいました。ヨハネ 6:44、『わたしを遣わした父が引き寄せられないかぎり、“だれも”わたしのところに来ることはできません。わたしは終わりの日にその人をよみがえらせます。』って…。また、ヨハネ 14:6 で、イエス様は、『わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。』ということをお教えいただきましたが、じゃあ、あのアブラハムは、どうして救われたのでしょうか？…アブラハムは、旧約時代の信者だったから、何か別の方法で救われたのでしょうか？⇒いいえ。アブラハムも私たちと同じ、「救い主を信じる」という信仰を通して、神様の憐れみによって救われたのです！

エペソ 1:4 に、『すなわち、神は私たちを世界の基の置かれる前から彼にあって選び、御前で聖く、傷のない者にしようとされました。』とありますように、あのアブラハムであっても、彼が救われるということは、永遠の昔から、神様のみこころの内に定まっていたのです。…つまりは、すべて、神様のみこころであり、神の御計画であったのです！そして、神が救われた者たちのことを変えてくださって、価値ある者…、キリストに似た者へと変えていってくださるのです！

確かに、かつての人間たち…、あのアダムとエバとは、造り主なる神様から、清く、罪の無い存在として造られました。しかし、それが、あの罪によって…、また、神様を拒んだことで、台無しになってしまいました。私たちが、少し前に学んだ、エペソ 2 章では、「かつて、私たちは、自分たちが犯したその罪過と罪との中に死んでいた…」ということをお教えしてくれました…。そのような、本来の価値を失ってしまった私たち人間のことを、神様が選び…、そして、買い戻してくださったのです。そうでしょ？

だから、そのエペソ 2 章のみことばは、かつての私たち…、つまり、すべての人間たちが、本当は、神様の御怒りを受けるべきであった…、つまり、神様からの裁きを受けて当然であった、ということをお教えしてくれています。…しかし、そんな私たちを、神様が一方的に愛し…、憐れんでくださったがゆえに、私たちは救われました。それがクリスチャンです！神様の選びとは、そのように、理由らしい理由が無いのです！もし、あるとすれば、それは神様です！…良いでしょうか？皆さん？私たち人間の側に、何か選ばれるべき理由が…、救われるべき必要性があったのではなく…、神様の側にこそ、理由があったのです。

正直言って、私が、近年に語られている、「あなたは高価で尊い！あなたには価値がある！」というメッセージを聴いていて問題と感じるのは、多くの教会が、救われる価値を“自分たちの側に”見出すところからです。言い換えれば、その人たちは、自分自身を神の前に誇っていると心得、私には価値があるんだ！私は、唯一無二の、掛け替えの無い存在で、私という存在は特別なんだ！」って…。でも、本当に、そうでしょうか？すべてのものの造り主なる神様は、そこらにある石ころからでも、『アブラハムの子孫』を造れるのではなかったでしょうか(マタイ 3:9、ルカ 3:8)？

旧約聖書のエレミヤ書には、こうあります、『誇る者は、ただ、これを誇れ。悟りを得て、わたしを知っていることを。わたしは【主】であって、地に恵みと公義と正義を行う者であり、わたしがこれらのことを喜ぶからだ。——【主】の御告げ——』(エレミヤ 9:24)って…。また、1 コリント 1:28-31 にも、こう教えられています。『28 また、この世の取るに足りない者や見下されている者を、神は選ばれました。すなわち、有るものをない者のようにするため、無に等しいものを選ばれたのです。29 これは、神の御前でだれをも誇らせ

ないためです。30 しかしあなたがたは、神によってキリスト・イエスのうちにあるのです。キリストは、私たちにとって、神の知恵となり、また、義と聖めと、贖いとにられました。31 まさしく、「誇る者は主を誇れ」と書いてあるとおりになるためです。』って…。このように、私たちの救いや選びの根拠は、ただ、神様にあります。だから、私たちは、自分を誇るのではなく、神様を誇り…、神様に感謝するべきなのです。違います？

Ⅲ・生きていくための、目的！(7節)

それでは、最後のポイントに移っていきましょう。神が、イスラエルに与えられた恵みの3つ目、それは、彼らが生きていくための、「目的」であります。天の神様は、私たちに、新しい生き方とその使命とを与えてくださるのです。どうぞ、もう1度、今日のみことばの7節をご覧ください。

7 わたしの名で呼ばれるすべての者は、わたしの栄光のために、わたしがこれを創造し、これを形造り、これを造った。

●「神の所有物」としてくださった！

今読んだみことばには、素晴らしいことが記されてありました。何と、神様は、イスラエルのことを指して、『わたしの名で呼ばれる(すべての)者…』とおっしゃってくださっているのです！あれほど、神様のみことばに逆らって、たくさん罪と偶像礼拝を犯したイスラエルのことを…。例えば、皆さんは、誰か恥ずかしい人と自分が何かの関係で繋がっていることを知られたと思います？…きっと、多くの方は、そうではないと思います。しかし、天の神様は、「自分と関係のある名で呼ばれる者たち、すべて」のことを指して、彼らは、『わたしの栄光のために』造った！とおっしゃってくださっています。実は、神が、その昔、ヤコブに与えられた、『イスラエル』という名前の内、『エル』は「神」を意味します。そして、『イスラ』の部分は、ヘブル語の「戦う」(サーラー)から来ていると言われています。ヤコブが、神と戦って、その名前を得たからです。つまり、皆さんも、よくご存知のように、天の神様が、このイスラエルという名前を、彼らに与えてくださったのです、「これはわたしの民だ！」って…。

実は、私たちクリスチャンも、それと同様です。私たちが、「クリスチャン」と呼ぶ、その「キリスト」の部分は、「キリスト」を表わしています。私たちが、キリストのものだとされたからです！皆さんもご存知のように、私たちは、イエス様を信じて、救われたことによって、神様によって、新しく造り変えられたのです(Ⅱコリント5:17)！神の所有物とされたのです！もう、イエス様を信じた、あなたは、あなた自身のものではありません。神様によって買い取られた神の奴隷だと…、そうⅠコリント6章のみことばは教えますでしょ？

●神のご性質を受け継がせてくださった！

そんなあなたには、神様が、新しい務めを与えてくださいました。それは、神様のために、神様の栄光を現わすために生きていける！ということであります。かつての私たちは皆、自分を1番として、自分のために、自分の都合だけを優先して生きておりました。しかし、イスラエルの民たちは、真の神様に選ばれ、その神様に従っていくことによって、この後も、神様のために用いられ…、神様の栄光を現わしていききました。もちろん、神によって選ばれた、イスラエルの民族とて完全ではありません…。しかし、彼らの歩みを通して…、また、彼らの歴史を通して、真の神様がおられ…、彼らと共にあることが証しされました。

クリスチャンである皆さん。実は、あなたも、この神様の栄光を現わすために、今、生かされています…。だから、Ⅰコリント6:19-20のみことばは、こう教えますでしょ？『19 あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。20 あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神

の栄光を現しなさい。』⇒救われた私たちは皆、神の宮(神殿)とされたのです。そんな私たちに対して、神様は、私たちが神の御性質と神の栄光を現わしていくことを願っておられるのです。

それと、少し前に学んだエペソ2:8-10でも、『8 あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。9 行いによるものではありません。だれも誇ることはないためです。10 私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあつて造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。』

⇒いかがでしょう？今紹介したみことばは、「あなたに価値があるから、あなたは救われたのですよ！救いは、あなた自身から出てきたのです…」みたいなことを教えてくれていました？…それとも、「あなたが救われたのは、ただ、神様からの恵みによるものです！救いは、あなた自身から出てきたものではない！」ということを教えてくれていました？どちらでしょう？

<励ましの言葉>

天の神様は、御自分の栄光のために、皆さんのことを選び…、あなたのことを造り変え、そうして、神に似た者へと変えてくださったのです。いえ、今現在も、神に似た者へと変えられていっているはずですよ。今、天の神様が、あなたに願っておられるのは、あなたが、その生き方によって、神様の栄光や神様の御性質を現わしていかれることです。どうぞ、日々、神様をあがめ…、神様のみことばに従っていくことによって、この神様と共に歩む者であっていただきたいと思えます。

そうして、まだ、イエス様をお信じになっておられない皆さん…。神様は、もちろん、皆さんのことも大きな愛でもって愛してくださっています。だから、ひとり子であるイエス様を、あなたの罪の身代わりとしてくださったのです！でも、もしも、あなたが、この神様のことを…、神様の愛を拒まれるなら、あなたに注がれる恵みは、今以上のものではありません。…そうして、その神様からの恵みは、いつか終わる時がやってきます。もしも、この神様からの恵みが無くなってしまったら…、つまり、あなたが裁きの場所に下ってしまったら、もう、そこに救いはありません。一切の恵みもありません。どうぞ、そうなる前、この神様が差し出してくださっている救いを、ご自分のものとしてくださいますように、お願いいたします。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。